

今後検討されるべきものとしてPOS方式は注目されているが、POS方式の導入に際してもPMD病棟においては、この方法は生かされるべき意義があるのではないかと考えている。

25) PMD患者のタイムスタディーを試みて

国立徳島療養所

豊原 シズ子 長尾 睦代
佐藤 松子 他10病棟看護婦一同

<はじめに>

PMD患者の日常生活動作は、看護婦、PT、指導員の介助を必要とする場合が多い。しかし24時間患者に接する看護婦の役割は極めて大きい。そこで私達は患者の一日の生活内容及び行動をよりの確に把握する必要があると思われタイムスタディー法を試みた。

<方 法>

対象者は表1に示す通りである。行動内容の一定していると思われる日を選び、身体的、環境的状况も考慮した。観察は起床から就寝までの時間帯とした。タイムスタディーの内容は、表1のように動作別に分類し検討した。

<結 果>

表1

1. 血圧、脈拍、室温、湿度など種々の日常生活動作の間には特別な関連性はみられなかった。
2. 学校登校日における日常生活動作の時間帯を個人別に対比した。(図1)どの患者にも共通して言えることは、自由時間が一日の生活時間帯で占める比率が最も多かった。最大の患者では一日の50%を占め、最少の患者でも一日の25%を占めていたことがわかった。
3. 自由時間、訓練時間、自力移動、看護援助の時間をみると、(図2)自由時間が多いのは、移動、訓練の時間が多いか又は少ないことによる。これに反して、看護援助は症状の重くなるにつれて増加していることがわかる。特にベット患児では多くなっていることは当然である。食事や排泄の時間でも同様のことがうかがわれる。このことは、食事内容や摂取量の問題が考えられるが、えん下障害、咀嚼力の低下、運動力の問題など、肉体的諸機能の低下のためである。

対象者	項目別分類表
ベッド患者 2名 <A B	1 自由時間(雑談、読書、趣味的なもの)
車椅子患者 2名 <C D	2 自力移動時間(移動、着脱等)
下肢器具患者 2名 <E F	3 訓練時間
独歩患者 1名 —G	4 食事時間
	5 排泄時間
	6 看護援助時間(起床、臥床、更衣介助等)
	7 診療介助時間(検査、処置等)
	8 視察時間
	9 その他

図1

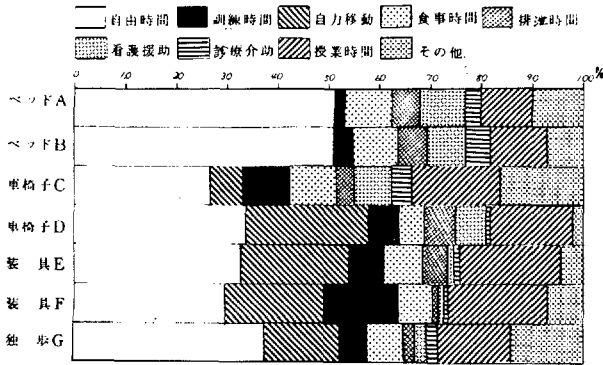
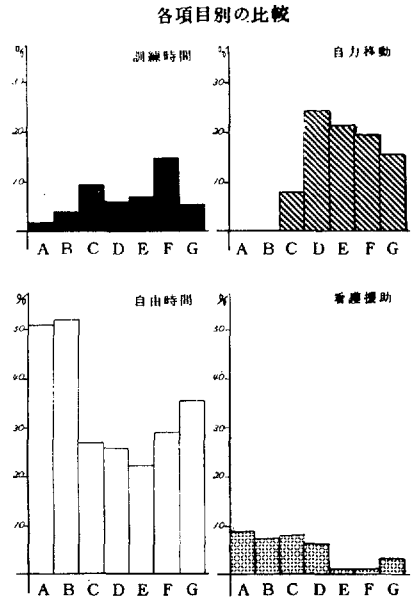


図2

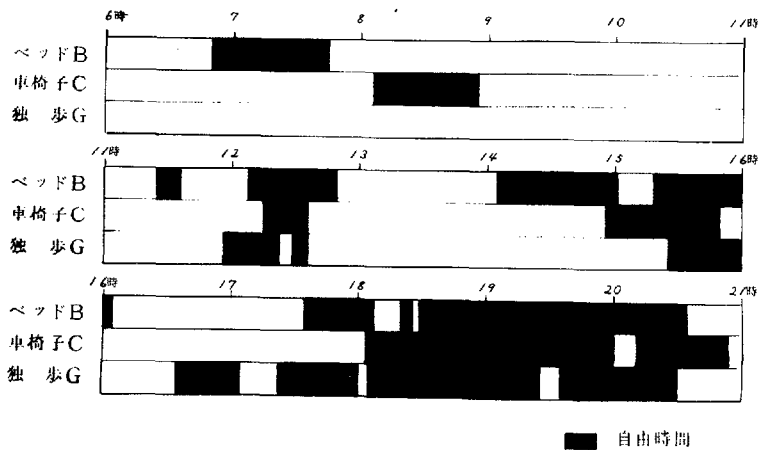


4. (図3) 自由時間は夜間に多くかたよっていた。このことは患者の動作が緩慢で移動も困難であり、介助者の少ない時間帯と言うことで、活動面からみると必ずしも満足した時間配分とは思えない。

5. 現実に自由時間の内容は、文芸関係、ハム交信、手芸等の趣味的なものが多く、個々の患者の個性が強く反映されていた。この様な場合、指導員の協力が得られれば、この限られた自由時間をより有効に生かすことができるだろう。

図3

1日における自由時間の配分



↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

<はじめに>

PMD 患者の日常生活動作は、看護婦、PT、指導員の介助を必要とする場合が多い。しかし 24 時間患者に接する看護婦の役割は極めて大きい。そこで私達は患者の一日の生活内容及び行動をよりの確に把握する必要があると思われタイムスタディー法を試みた。